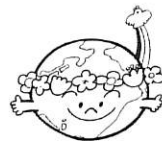


平和への願いを 歌声にのせて



大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合



ホームページ

大障教 女性部総会

7月11日、たかつガーデンにて女性部総会を開催しました。会場参加、オンライン参加、委任状を含めて総会は成立しました。総会では、様々な発言が行われ、参加者アンケートには、「多くの学校の話が聞けてよかった」「明日からがんばろうと思います」などの感想がありました。



あいさつする山中部長

オープニングは、元府障教書記長の中元正文さんによる歌と語りでした。「イマジン」「青い空は」などを透き通るような美しい声で歌われて、歌詞に込められた思いを語っていただき、平和について改めて考える機会となりました。

部長あいさつでは、「周囲に心配りができる余裕のある職場にするためには、十分な人員配置が急務であり要求していく」と述べました。経過報告と決算報告、運動方針・スローガン・予算などの提案後、多くの分

会から発言がありました。

次に多く寄せられたのは、施設・設備の老朽化です。「府立高校等の跡地を利用した学校では、校舎敷地は広いが使いにくい」、「古い学校は老朽化で雨漏りし、子どもたちが教室移動せざるを得ず、教育活動に支障がある」などの発言もありました。



各分会からたくさんの
発言がありました

また、寄宿舎教員からは、多岐にわたる仕事内容や、平均年齢が高い現状なども赤裸々に語られました。ただちに採用選考を再開するよう、今年度も要求します。

この他にも、「定数配置に疑問を感じて管理職に訴えたがうまくいかない」、「インクルーシブ教育と耳障りのいいことを言って、支援教育を安上がりにしよ」とする府教委の方針に疑問を感じる、「教室が足りず、廊下をパーティーションで区切って転用している」など、府教委の「教育軽視」とも言える実態を問題視する声もたくさんありました。



女性部
歌と語りから、平和について
改めて考えました

また、「生徒の成長を感じて嬉しくなった」という心温まる話、「転任して来た方の心のケアをもっとできたのでは」と自責の念に駆られるという話、「若い教員が多いが、仕事に追われて子どもたちの話をする余裕がない雰囲気を残念に思う」という話もありました。各学校での様々な困り事や要求を、限られた時間でまとめて発言してくださったみなさん、ありがとうございました。

(女性部)

大阪府立障害児学校教職員組合 大阪市天王寺区東高津町7-11 府教育会館704号 TEL 06-6765-8904 FAX 06-6765-8905

書記局の ひゅすじゅ

♪誰にも言えない事は どうすりゃいいの？
寄り道なんかしてたら 置いてかれるよ
すべに♪

これは、斉藤和義さんの「歩いて帰ろう」の歌詞で、「ボンキッキーズ」のオープニングテーマ曲でした。斉藤和義さんは同曲について、「自分が望まない方向へ進ませようとする不満をストレートに表現したもの」と語っています。

教育活動の営みで、自分が望まない方向へ「無理やり」進められることは、教育の条理に反します。子どもが主人公の学校では、職員室で「〇〇ちゃん、今日はねえ〜」って感じで、教員が子どものことを日常的に話す文化を大切にしたいものです。

しかし、最近の学校は、ゆとりがなくて、「寄り道してたら置いてかれるよ」って……。子どもの話より学習指導要領って感じ。校長が示す学校経営計画実現に向け、PDCAサイクルで、教員の仕事を管理するようになって、その傾向が強まりました。校長の作った目標実現のために、教員は働いているのではないんですね。

この曲の最後を引用します。

♪走る街を見下ろして のんびり雲が泳いでく
だから歩いて帰ろう 今日は歩いて帰ろう♪

「走る街」って、今の学校のようにだと思いませんか？変わることに絶対の価値があり、効率よく仕事をすることを善とする学校。しかし、教育の営みには、無駄に思えることや、同じことを愚直に続けることに価値があることがあります。

さあ、夏休み。「走る」ことを小休止し、のんびり歩いていく「おおかき」を取り戻す機会にしたいですね。

(久)

大障教定期大会

発言ダイジェスト(その4)

教職員の意見を尊重し、よりよい本校化を！

交野支援四條畷校分会 門田代議員



四條畷校は2029年度に本校化が迫っています。本校化を喜んだのもつかの間、子どもたちの教育環境に関わる喜ばない計画が示されました。

350人規模という、開校当初から「過大・過密」の計画であるということ。

小学部棟は新設されず、既存の校舎を4階まで使用するという。HR教室は57室ありますが特別教室が不足で、分校である現在より悪化する教室配置です。さらに、民間貸出スペースの設置が計画されています。教室不足の中で、この計画を進めることはありえませんか。

分会では、ニュースの発行や要求アンケートの実施



私は、4年前に高等学校より支援学校に赴任しました。支援学校に来てすぐの頃に「子どもたちが社会に出たときに、役に立つことを教えるんだよ」と、同僚に言われました。高等学校でなんとなく授業をしていた私にとっては、衝撃的

でした。そのあと、他の先生の授業や普段の生活を考えられているうちに、自分の授業はこのままでよいのかなと思うようになりました。たとえば、アナログ時計は読めるに越したことはありませんが、スマートフォンを使うようになってデジタル時計を見ることも多いので、まずはデジタル時計を読めるようになればよい子どももいるように感じます。また、買い物で値段と

子どもたちの生活を考えて、授業づくりをしていきたい

泉南支援分会 岸本代議員

をはじめ、部主事や首席と懇談し、本校化の問題点を共有するなどの取り組みを行ってきました。学年会や教科会で本校化の設計図面を見ながら、自分たちの学校が少しでも良い方向になるようにとそれぞれの教員



組合の教研が、同僚と楽しく話すきっかけに

佐野支援分会 山本代議員

職場でコミュニケーションをとる機会がなかなかない中で、組合の教研や「めざとも」等は同僚と話すきっかけになり、とてもありがたいです。私自身は教研に参加するのはもとより好きですが、参加にハードルを感じる人もいますので、どうやって誘ったら参加しても

職業でコミュニケーションをとる機会がなかなかない中で、組合の教研や「めざとも」等は同僚と話すきっかけになり、とてもありがたいです。私自身は教研に参加するのはもとより好きですが、参加にハードルを感じる人もいますので、どうやって誘ったら参加しても



憲法を守ろう！一人ひとりの輝きが生きる社会を

なにわ高等支援分会 瀧井代議員

らしいやすいかを考えました。私は学んだ後に、一緒に食べたり飲んだりしながら話すことが大好きなので、先日の新歓教研の後には、鶴橋で韓国料理に行くことにしました。一緒に参加した同僚たちが教研のことや学

校のこと、それ以外のことも楽しそうに話している光景がとても嬉しかったです。以前、教員ではない知り合いが「学校の先生は楽しんでいてほしい」と言っていて、私にはこの言葉がすごく心に残っています。みなさんは最近楽しんでいますか。私はそうでないことも多々あります。楽しんで過すことが難しいこの頃、こういう時こそ組合の力が必要だと思います。

以前、勤めていた高校で9条の会ニュースを発行していました。読み返すと、生徒たちとの関わりの中から、彼らに突き動かされるように9条への思いを書いたものばかりでした。「生徒とともに笑い、悩み、生きていく喜びを何事にも代えがたく思いながら、反戦への想いは痛切に胸に迫る」と、当時の私はニュースに記していました。

15年前、教え子一人亡くしました。自殺でした。9兆円に迫ろうとする軍

彼は経済的に苦しく、大学の夜間部に入学後は、昼に働きながら学生生活を送っていました。最後に実家に戻って来たときに、「しきりに『高校時代が一番楽しかった』と言っていた」というお母さんの言葉が胸に迫りました。彼が逝ってしまった理由はわかりませんが、ただ、彼がどうしても生きていたいたいと思えるだけの希望を自分の未来に見出せなかったことは確かだと思っています。大切なことは子どもたちが、若者が、希望を抱ける未来を、そして、学校で学んだことが実を結ぶ社会を築くことではないでしょうか。

事費が計上され、「贅沢は敵だ」という言葉が復活しそうな勢いで、軍事中心となった日本の中で、その他のあらゆる敵とみなされ削減される方向に動いています。経済はもちろん、医療も、福祉も、教育も、国民の生活を守り、豊かにするための政策はすべて贅沢として削り取られ、際限もなく軍事費に投じられ、戦争する日本へ突き進むため、戦前と同じ動きが今まさに始まっているのです。「教え子を再び戦場に送るな」のスローガンを改めて心に刻みつつ、教室の生徒一人ひとりの輝きが生きる社会を願って、日々生きていきたいと思っています。